

令和7年度 長岡京市立中学校
米国短期交換留学事業

米国マサチューセッツ州
アーリントン

訪米・訪日報告書

長岡京市立中学校
米国短期交換留学協議会

Captain's Report 2025

This year we successfully challenged ourselves again to build a better bond between our students and Arlington people. While we continued teaching about Japanese culture, we also made more room in the schedule for our children to be children. It is very easy to forget that our wonderful exchange students are only junior high schoolers—they are clever, thoughtful, and incredibly mature young men and women. But, by giving them more time to connect in more natural ways with their peers and host families, they were able to bond spectacularly and make their own connections. It was very apparent that the adjustments to the program were working when a whole gymnasium of American junior high schoolers (who typically do not like to show excitement for school presentations) went wild and cheered for each of our students as they introduced themselves, but quieted down and respectfully listened and learned as we did our cultural presentations. It was exhilarating.

As per usual, we had many excursions and exciting experiences, from the bottom levels of Fenway Park up to the top of Arlington's highest fire engine ladder. The trip, as always, is worth every second of hard, focused work we all put in over the year. Thank you to both communities, Nagaokakyo and Arlington, for continuing to support us in such a worthy endeavor and for offering us opportunities, because in a world that can often be a bit too dark and sad, to create light and happiness means everything.

Captain Conor

キャプテン・レポート 2025

今年も私たちは、子どもたちとアーリントンの皆さんとの絆をさらに深めることに挑戦し、成功を収めました。日本文化を紹介する活動が続けつつ、子どもたちが「子どもらしく」過ごせる時間を、より多くスケジュールに組み込みました。素晴らしい交換留学生たちが、まだ中学生であることを忘れがちになります。彼らはとても賢く、思いやりがあり、驚くほど大人びています。しかし、同世代の仲間やホストファミリーと自然な形で触れ合う時間を持つことで、より深くつながりを築き、自分たちの関係を育むことができました。

プログラムの改善がうまくいっていることは、アメリカの中学生たちが体育館いっぱいに集まり、普段は学校の発表にあまり盛り上がらない彼らが、我が生徒一人ひとりの自己紹介に大歓声を送り、その後の文化発表では静かに耳を傾け、敬意をもって学んでくれた姿からも明らかでした。あの光景は本当に胸が高鳴るものでした。

例年通り、今年も多くの見学や体験を重ねました。フェンウェイ・パークの地下から、アーリントンで最も高い消防車のはしごの頂上まで。1年間の努力と集中した準備のすべてが、この旅の一瞬一瞬に報われます。

この価値ある取り組みを支え、私たちに貴重な機会を与えてくださった長岡京とアーリントン両方の地域の皆さまに心から感謝いたします。世の中が少し暗く、悲しく感じられることもある中で、光と喜びを生み出すことには何よりの意味があると信じています。

キャプテン・コナー

目次

はじめに

I 訪米

1 訪問団員名簿	1
2 訪問日程	2
3 生徒感想文	3
4 アーリントンだより	23

II 訪日

1 訪日団員名簿	46
2 訪問日程	47
3 訪問の様子	48

I 訪米

令和7年度 米国アーリントン訪問団員

学校	学年	名前	Name
長岡中学校	2	塩見 蓮香	SHIOMI RENKA
長岡中学校	2	宮崎 玲成	MIYAZAKI REISEI
長岡中学校	2	山口 絢香	YAMAGUCHI AYAKA
長岡中学校	2	山崎 さち	YAMAZAKI SACHI
長岡第二中学校	2	平野 友鈴	HIRANO YURI
長岡第二中学校	2	松井 蓮	MATSUI REN
長岡第三中学校	2	森下 幸俊	MORISHITA YUKITOSHI
長岡第三中学校	2	山田 咲月	YAMADA SATSUKI
長岡第四中学校	2	大久保 芽依	OKUBO MEI
長岡第四中学校	2	鎌田 昂	KAMADA KO
長岡第四中学校	2	上田 和歩	UEDA KAHO
長岡第四中学校	2	山脇 翼	YAMAWAKI TSUBASA
長岡第四中学校	2	高橋 宙生	TAKAHASHI YUI
長岡中学校	3	近藤 千紘	KONDO CHIHIRO
長岡中学校	3	内山 実彩	UCHIYAMA MISAKI
長岡第四中学校	3	岩田 翔世	IWATA SHOSEI

役職	名前	Name
国際理解教育指導員	藤原 麻紀子	FUJIWARA MAKIKO
長岡京市AET	ボイル・コナー	CONOR BOYLE
長岡京市教育委員会	山崎 智之	YAMAZAKI TOMOYUKI

訪米 日程

日次	時間	交通機関	行程
4月29日 (火)	10:00 10:54 14:58 18:30 17:05	JR JL008	集合場所:バンビオ広場公園 JR長岡京 出発 成田空港 着 成田空港 発 ボストン空港 着(同日着) 到着後ホストファミリーとホスト宅へ
～			
5月8日 (木)	13:35	JL007	ボストン空港 発
5月9日 (金)	16:15 18:25 19:50 20:30 21:15	JL007 JL3009 貸切バス	成田空港 着 成田空港 発 伊丹空港 着 伊丹空港 発 解散場所:帝産観光バス京都支店

滞在中のプログラム

- ・ギブス学校、オトソン中学校、アーリントン高校、ダリン小学校訪問
- ・レッドソックス試合観戦、ファンウェイ球場ツアー、ボストン散策、ハーバード、アクアリウム、クインシーマーケット、アーリントン市内見学、レキシントン・コンコード散策
- ・タウンミーティングに参加(セレモニー・スピーチ)、タウンホール訪問、アーリントン市内見学、市民との文化交流
- ・その他交流行事等への参加

(氏名) 塩見蓮香

(学校 学年) 長岡中学校 2年

今回のアーリントン訪問で感じたことはすべての瞬間が思い出ということでした。私が一番緊張し、不安だったことはホストファミリーとちゃんと会話ができるかということでした。アーリントンに着きバスでホストファミリーとの待ち合わせ場所に行く時は緊張しかありませんでした。実際に会うと私をすごく歓迎してくれました。でも、私はすごく人見知りなので1日目はリビングにいても何もしゃべれず、「出来るだけリビングにいるように」と言われていたのですが、自分の部屋に戻ってしまうこともありました。

2日目は消防署や警察署、クインシーマーケットに行きました。そして、帰りのバスではまだみんなといたいという気持ちと正直ホームステイ先に帰りたくないという気持ちを共感していました。でも、その日リビングにいとホストファミリーが「今日はどうだった？」などと話しかけてくれて、それから緊張がほぐれて自分からも話すことが出来るようになり、もっと話したいとまで思えるようになりました。それは私にとって大きな一歩だと感じました。

3日目は私がプログラムの中で一番不安だった学校訪問でした。そこでは、案内をしてくれるペアの女の子ゾーイがいて私と先輩との3人ペアでやりました。私たちはゾーイについて行き色んな授業を受けさせてもらいました。ゾーイは私たちに授業で何をやっているのかを教えてくれたり、次の授業がある部屋に案内してくれたりとすごく気にかけてくれる子でした。おかげで楽しく授業を受けることができました。授業を受ける中での日本との違いは、色々ありましたが、その中でも一番驚いたのは、授業中に先生さえもお菓子を食べていたり、ずっとパソコンを使う授業があることです。みんなタイピングをするのがすごく早くてびっくりしました。自分たちの発表では、他の学校訪問の時もそうだったようにすごく盛り上がってくれて、一緒に歌ってくれたり発表が終わったあとの歓声が日本とは違うなと感じました。一番不安だった学校訪問は、プログラムの中でも1番といっても過言ではないほど楽しい体験でした。

ホストファミリーデイや野球観戦もとても良い思い出になりました。

私は今回のアーリントン訪問で、旅行だけでは体験できないことを体験し、これを通してどんな時でもコミュニケーションが大切だと思いました。将来この経験で学んだことを自分の夢に繋げていきたいと思います。

半年間、学習会でお世話になった先生方、ありがとうございました。

(氏名) 宮崎 玲成

(学校 学年) 長岡中学校 2 年

今回のアーリントン訪問で、僕はとても良い経験をすることができました。僕が応募した理由は、アメリカの文化を知り、日本との違いを肌で感じそれを友達や家族に共有したいと思ったからです。また自分は将来海外と関わる仕事をしたいと思っていました。

僕の一番の思い出は、フェンウェイパークでのレッドソックスの試合です。試合開始直後、相手チームの先頭打者が初球にホームランを打ちました。そのあとは両チームが点の取り合いでした。8 回に Sweet Caroline を歌いました。「レッツゴー! レッドソックス!」の時は球場が揺れるような大きさと、日本では感じるののできない興奮を味わうことができました。試合は 1 点差で負けてしまいましたが、とても楽しかったです。

日本とアメリカの違いについて僕が特に感じたことは、2 つあります。1 つ目は、食べ物の量と大きさです。例えばアイスクリームは、日本の「small」はひとすくいですが、アメリカの「small」は日本である「big」が出てきたことがとても驚きました。2 つ目は、学校での授業です。日本の学校では授業中は私語厳禁です。しかしアメリカでは授業中に友達と話すことやお菓子を食べることもできて、とても自由なシステムになっています。また日本では受ける授業が決まっていますが、アメリカでは選択制の授業です。一人ひとり、自分で授業を決めます。このようなアメリカのシステムに僕は憧れを持ちました。日本は勉強をしてみんなで楽しむという感覚にこれまでなったことがありませんでしたが、アメリカで授業を受けたときは、みんなが楽しんで授業を受けているようでした。それを見て日本にもこのような制度があったらいいと感じました。

今回の訪問に先立ってホストファミリーとオンラインを 2 回行い関係を深めて行きました。日本のお菓子やお箸をお土産に持って行きました。また長岡京のことを知ってもらうため、家族や長岡京の紹介をアルバムにまとめて行きました。ホストファミリーにはとても喜んでもらえました。ホストファミリーとは、一緒に料理を作ったり、キャッチボールをしたり、ヨットに乗せてもらったりしました。僕は帰り際、部屋に手紙と日本のお菓子を置いて帰りました。少しでもホストファミリーに感謝を伝えられたら良いと思いました。

今回の訪問を通じて、僕の目的としていたアメリカと日本の違いを肌で感じることができました。今回の訪問では海外の人と会話するのに聞き取れず、とても苦労をしました。だから英語をもっと勉強し、海外の人と会話できるまでになりたいと思いました。

(報告者氏名)山口 絢香

(学校 学年)長岡中学校 2年

アーリントン訪問は、私にとって異文化に触れたり新しい価値観を学ぶ貴重な経験となりました。

特に印象に残った場所はレキシントンです。レキシントンはアメリカ独立戦争の始まりの地として知られています。実際にその場に立つと、ここでアメリカの歴史が動いたんだなと強く心に響きそれまで本の中で読んだことがあるだけだった出来事が一気に私の中で現実味を帯びました。歴史を学ぶには本や教科書を読むだけでなく、実際にその場所を訪れることで得られる理解もあると感じました。

また私が訪問中一番感動したことは、ホストファミリーや地域の方々、その他にもお世話になった多くの皆さんの暖かさです。

特にホストファミリーはいつもニコニコと優しく、毎日色々な話をすることがとても楽しかったです。なかでも毎朝集合場所まで送ってもらう道中、目に映る様々な場所や景色にまつわる家族の思い出話を聞かせてもらう時間がとても心地よく大好きでした。ホストファミリーに親近感を持ち、なじむことができたきっかけにもなったと思っています。コミュニケーションの面では、私が言葉が分からないときは身振り手振りで教える、言い方を変える、ゆっくりと話すといったようにいつも私が理解できるように寄り添ってくれました。そして、日中は犬を連れて森でのハイキング、養蜂体験、蜂蜜を使ったアロマキャンドル作り、ボストン観光、カヌー、湖のそばのハンモックに揺られながらの読書、バーベキューなど、夜は映画を見たりゲームをしたりとその他にもたくさんのことを体験させてくれました。朝起きてから夜寝る間際まで本当に楽しい毎日を過ごさせてもらい感謝の気持ちでいっぱいです。また、日本から持って行ったラーメンを一緒につくってお箸で食べたりと日本的な時間を一緒に過ごせたこともいい思い出になっています。

今回の訪問においての最も大きな学びは「自分の意見をはっきりと相手に伝えることの重要性」です。日本では、空気を読むことや遠慮することも大切にされていますが、アメリカでは自分の考えや気持ちを率直に伝えることが必要でした。最初は少しとまどいましたが、次第に自分の考えをはっきりと伝えることはむしろ相手への思いやりでもあるのではないかと考え方が変わりました。その上で相手の話にもしっかりと耳を傾けて意見を尊重することが関係づくりにおいてとても重要なことだと学びました。

また改善点は、相手からの質問に答えることに精一杯になったり、こちらの話を伝えることに意識が向きがちになったことです。言葉の壁や文化の違いがあることなどから「この質問は話の筋に合っているかな？失礼にあたらないかな？」など気にしてしまう瞬間が多々あり、積極的に相手に対して疑問に思うことや知りたい

ことを質問してもっと理解しようという姿勢が足りなかったように思います。

これらの経験をふまえて、今後日々の英語学習により一層力を入れるとともに国内外に広い視野と興味、関心を持つことが大切であるとあらためて思いました。また語学、知識だけでなく自分自身についてよく考え理解することや、聞く力・共感する力など人間的な成長も重要だと感じました。これらの学んだことをこれからの進路や人生にしっかりと活かしていきたいです。

(氏名)山崎 さち

(学校 学年)長岡中学校 2 年

私は長岡京の訪問団の1人としてアーリントンを訪問させていただくことができました。とても貴重な機会でたくさん学び、普段ではできない新たな体験をさせてもらい、とってもうれしく思っています。

アーリントンに行く前日はとても緊張していました。私はこの留学がはじめての海外だったのでうまくしゃべれるか、コミュニケーションはしっかりととることができるのかなど考えれば考えるほど不安はたくさんありました。でも楽しむということを忘れずにいきました。

アーリントンに行ったメンバーはとても仲が良く移動時間や自由行動時間ではいつもみんなと一緒にいました。私はこのメンバーでアーリントンに行くことができたのはとってもうれしかったです。

ボストンについたときはすべてが英語だったし、とっても温かい感じがしました。でも、トイレの戸と床の間が結構あいていたのは、とっても衝撃でした。

そしてそのあと、初めてホストファミリーと会いました。

ホストファミリーは、4人家族のところでアレックス・ジン・アリス・ブライアンでした。アリスは私と同年で、ブライアンは3つ下でした。お母さんのジンは中国の人でアレックスはとても面白くて、家族のムードメーカーでした。4人ともとてもやさしくておもしろくてとてもいい家族でした。はじめて会った時も「今日からあなたは私たちの家族の一人だね」と言ってくれて、はじめにあった緊張がすべてなくなったように感じました。ホストファミリーとは一緒に日本のアニメを見たり、ゲームをしたり、日本の絵とアメリカの絵をかきあったりしたり、ロブスターを食べたり、水族館にいったりバドミントンをしたり、とっても楽しいことをたくさんしました。最後の日にはアリスがビーズでつくったブレスレットとブライアンが大切にしていた、小さいサッカーボールを渡してくれました。そしてアレックスとジンからはたくさんのお菓子とボストンの帽子と3種類の豪華なリップを渡してくれました。本当にうれしかったし、また絶対に行くと約束しました。ちなみにアリスがくれたブレスレットには英語で「私の大切な友達」とかいてありました。このブレスレットとサッカーボールは私の一生の宝物です。本当にいい家庭にホストさせてもらい、とっても感謝しています。

最後にアーリントンにいて学んだことがあります。

1つ目はアーリントンの人たちは全員やさしいということです。もちろんホストファミリーもそうだし、警察署長さんや消防署長さん、小中高の案内してくれた人や校長先生、そして生徒のみんななどたくさんのひとが私たちをあたたかくむかえてくれてとってもうれしかったし、アーリントンにいくことができ本当よかったなとおも

えました。

2つ目はたくさんの国との交流です。アメリカは日本だけでなく仲のいい国が多いことで有名です。例えば、道に通っているトラックなどにアメリカと工業を一緒に行っている国の国旗がかいてあったり、道にアジア通みたいなところがあって、そこに日本食や中華料理、韓国領、インド料理までたくさんのアジアの人たちがいました。

3つ目は誰でも受け入れているところです。アメリカに住んでいる人はほぼヨーロッパやアジアからの移住民で先住民のネイティブアメリカの人たちはあまり住んでいません。そのため、同じアメリカに住んでいても食べるものが違ったり、家庭環境が違ふところもたくさんあると思いますがそれを全部受け入れて、国が成り立っているのがすごいなと感じました。

私はこの留学がきっかけで自分のなりたい将来の夢を見つけることができました。それはキャビンアテンダントです。行く前から少し興味があったけど、実際にいってみると、もっとなりたいという思いがとて強くなりました。実際に見てみて、思った以上にかっこいいと思ったし、もし何かあった時でもこの人たちなら任せられるととても頼りがいがありました。発音のいい英語で話していたのもかっこよかったし、いつも笑顔でいてくれてわたしも将来、この人たちみたいになりたいなという憧れを持つことができました。

最後にスケジュールをたくさんこなしてくれた、まき先生、ともさん、わからない英語をしっかり教えてくれたコナー先生、私たちが行くまでたくさん協力してくれた、鍋島さん、ヘンリー先生、そのえ先生、あたたかく私たちを迎えてくれたホストファミリーやアーリントンのみなさん、必要なものをしっかりそろえてくれた両親、こういう貴重な機会をつくってくださった長岡京市のみなさん、ほんとうにありがとうございました。私はこの留学に行けて本当に良かったです。アーリントンで学んだたくさんのことを将来にいかせるようにしたいです。

(氏名)平野 友鈴

(学校 学年)長岡第二中学校 2年

私は、アーリントンへの訪問で様々な経験から多くの事を肌で感じ、とても、成長できたと思います。例えば、アーリントンの人々は、健康を意識している方が多いと感じました。朝5時頃から、外を見ると、ウォーキングや、ジョギングしている人がいたり、サイクリングロードがあり、サイクリングしている人もいました。また、学校を訪れた際には、日本と違い様々な国の生徒がいたり、校則もあまりない印象で、とても自由に感じました。私もホストファミリーとの生活で夜9時半までに寝たり朝は5時に起き、一緒にウォーキングをしました。日本とは時間の使い方が違ってとても貴重な体験だったと思います。

最も印象に残った場所はダリン小学校です。日本の文化である習字を教えた時、小学生のしゃべるスピードが早く、おどろきました。初めは「？」と何度も聞き返したり、「I want you to speak slowly.」と言い聞き取るのに苦戦しました。けれど喋っているうちになんとなく単語が聞き取れるようになってきて、うれしくなりました。ペアの子が喋っている時も、完璧ではありませんが少しは聞き取り、答える事が出来、自分でも驚きました。一生懸命に伝わるかなと少し緊張しながら英語で、日本の文化である習字を伝え、ダリン小学校の子供達も私の英語を一生懸命に聞いてくれていた事、そして自分が現地の子供の話す英語を聞き取れ、答えられた時は仲間になれた気持ちが出て、とても感動しました。あの瞬間は忘れられません。

ホストファミリーにしてもらった事は学校から帰ってから一緒に日本のアニメを観ながら日本語と英語の教え合いをしたり、寝るまでカードゲームをして遊んで過ごしました。

ホストファミリーデーでは、ボストンに行きダックツアーに参加し、船に乗りボストンの景色を船から楽しみました。ボストンの景色は銀色の建物がたくさんあったり、歴史を感じる建物があり、ボストンならではの雰囲気を感じました。

今回の訪問でアメリカと日本の違いをたくさん知る事が出来、日本にいただけでは感じる事が出来ない体験や、考え方を知りとても価値のある留学になったと思います。

この経験で得た事を忘れずに、今後もたくさんの国の人と会話し、視野を広げていけるようにしたいです。

(氏名)松井 蓮

(学校 学年)長岡第二中学校 2年

僕は生まれてから一度も海外渡航の経験がなく、飛行機にさえ乗ったこともありませんでした。今回の訪問は僕にとって、一つ一つすべてが未経験での始まりでした。

活動を通して最も記憶に残ったことを選ぶのはとても難しく、どの日もどの活動も全てが感動的で、今までの人生で最も鮮明に心に残りました。中でも、クインシーマーケットを訪れたときは、驚きが沢山ありました。日本とは桁違いの大きなスケールで、見たことがないような様々な商品を見て回り、外では音楽が流れ、マジックショーが繰り広げられ、ただ歩いているだけで、全体が楽しい雰囲気であふれていて、まるで夢の世界のようでした。

ホストファミリーとは、最初きちんとコミュニケーションがとれるのだろうか、正直不安な気持ちでいっぱいでした。でも、実際に会ってみるとスタート時点から満面の笑顔で迎え入れてくれ、あっという間に仲良くなることが出来ました。僕の拙い英語を真剣に、一生懸命聞きとろうとしてくれているのがとてもよく分かり、安心して過ごすことが出来ました。ホストファミリーのお兄さん三人達とは、学校から帰宅して夕方になると、毎日のようにロビンスパークという公園に行き、キャッチボールしたり、駆け回ったり、全力で遊び、朝になると愛犬のリリーを連れて散歩に行きました。リリーは僕にも懐いてくれて、家族皆の癒しでした。ホストファミリーデーにはボストンの海辺の公園へ行き、皆でたくさん歩いて、ロブスターロールを食べました。最高でした。

ホストファミリーが、最初から最後まで、僕を本当の家族のように接してくれたことが、一生忘れられません。最終日のお別れの時は、苦しくなるくらいハグをされ、皆とても悲しんでくれて、僕も日本に帰りたくない気持ちでいっぱいになりました。

今回の経験を通して、僕は世界が一気に広がったことを肌で感じました。今までの狭かった僕の世界は、実はこんなにも広がったのだと感じました。

そして、自分が伝えたいという気持ちさえ持っていれば、国は違っても人は通じ合えるのだということを知りました。もう一度、ホストファミリーに会いたいです。いつか近い将来、必ずアーリントンを再訪問すると決めました。

今回、この留学の取り組みに参加させていただき、本当にありがとうございました。

(氏名)森下 幸俊

(学校 学年)長岡第三中学校 2 年

僕が最も印象に残った場面は、フェンウェイパークでの試合観戦です。

あの時の熱狂は本当に忘れられません。初めて球場に足を踏み入れ練習風景を間近で観察し、ファンたちの熱量を肌で感じました。メジャーの中で最も古い座席で観戦させてもらいました。この場面を選んだ1番の理由は応援の仕方です。現地の人達は本当にノリが良くて選手とファンの一体感、ファンが選手を支えている感じが強く感じました。みんな心から素直に応援していました。

僕のホストファミリーたちは、一言では言い切れないくらい良い人たちでした。。ドイツ人のホストファザーにはドイツ料理、特にジャーマンポテトを作ってもらい、中国人のホストマザーには本場の麻婆豆腐を作っていただき、休日にはボストンの街に連れて行ってもらいました。洗濯機を回したまま忘れてうっかり寝てしまった時も代わりに干してもらったりと例をあげれば数え切れないほどのことをしてもらいました。ホストファミリーは僕をお客さんとしてではなく、家族の一員として迎えてくださり、余計嬉しく思いました。変にお客様扱いするのではなく、家族の一員として迎えてもらえるほうが一番うれしいことに気が付きました。

今回の訪問で気づいた、アメリカの良いところとして一番はコミュニケーションを大切にするところだと思いました。

買い物に行った時、ホストマザーと店員さんは初対面なはずにも関わらず名前を交換していたり、交換留学生の僕のことまで紹介してくれました。「ハロー」などの挨拶だけで終わるのではなく、今日の調子を聞き合ったり、ちょっとした世間話をしたりなど、プラスαで話していることに心を打たれました。この様子はこれに限ったことではなく、色々な人が当然のように行なっていました。このことからこれから初対面の人と関わる時否定から入らずに、よりフレンドリーになれるように、日々のコミュニケーションを大切にできるように頑張りたいと思いました。

(氏名)山田 咲月

(学校 学年)長岡第三中学校 2 年

私が 1 番印象に残った場所は消防署です。私が消防署が最も良かったと感じた理由は、気さくな人が多く、体験できたことも多かったからです。その中でも良かったのが、はしご車搭乗体験です。上昇する乗り場は体感 1 分程で、みるみる上がっていき、遠くにボストンのビルが見えました。今回体験した高さで私は十分高く感じましたが、実はまだ高くなるそうで、上がりすぎると乗り場が揺れるそうです。

その他にも、消防といえはの防火服を少し着させていただいたり、水を発射したりしました。狙いを定めるのが難しい消防署から警察署に向かう際には、チーフの車に乗せていただきました。みんなでレッドソックスの応援歌を歌い、大盛り上がりで最高でした。最後に私たちおすすめの J-pop、Mrs.GREEN APPLE を流して、ドライブタイムは終了となりました。

貴重な体験をバシバシやらせていただいて、テンションは常に右肩上がりでした！

次に、私がホストファミリーにしてもらった沢山のことを少し紹介します。

3 日目、夜ごはんを食べ終わって、ホストファミリーにアイスクリームを食べないかと提案されました。この提案を聞いて私はワクワクが止まりませんでした。ベランダのような、外のソファに座って食べました。私はそれがとても幸せでした。他にもアメリカらしいバービーの映画を観たり、壁いっぱいの棚に積み上げられたボードゲームやパズルたちと一緒に遊んだりしました。ジグソーパズルは 5 つ程、完成させました。歓迎ムードで、私を楽しませようと、すごく沢山のことをしてくれました。緊張も、思っていたよりすぐとれて、会話も段々と増えていきました。

この 10 日間はずっと変な感覚でした。忙しいのに疲れない、楽しい！内容が十分過ぎるくらいに濃く、毎日興味深い体験が詰め込まれています。普段の生活からだと信じられない感覚を味わえました。

私がこのプログラムに応募した理由は「自分を成長させる何かがあるはずだから。」でした。実際に、私は大きく成長できました。特に私は「手をあげないともったいない」ということを実感しました。せっかくのチャンスなのに遠慮してしまったり、勇気が出なくてやりたいと言えなかったり。小さなことでも後で後悔するかも。私は勇気を出したい、手をあげたいと思っても、やめておこうかなと思ってしまい、挑戦することが苦手でした。そんな私でもこのプログラムに勇気を出して応募することができました。その後は「受かったんだから」「自分で応募したんだから」という

気持ちでここまで頑張ってくることができました。
この経験は私のかけがえのない成功体験です。

(氏名)大久保芽依

(学校 学年)長岡第四中学校 2 年

「学校訪問」

これが私にとって一番楽しかったし驚きがあったことです。特に中学校での驚きが多かったです。そして、日本と似ているのはギブススクールだったと思います。実際に体験してよくパソコンを使っている印象がとてもあり、レポートの課題なども多いようで私たちよりも使い方に慣れていると思いました。次に黒板です。現地の学校は黒板ではなくホワイトボードでした。そして、書く内容はちょっとしたメモで、ノートに取るということはしていませんでした。お昼ご飯の時はカフェテリアに集まって友達と会話しながら食べたのでとてもにぎやかでした。

ホストファミリーとは日本ではできないような体験をさせてもらいました。あまり食べないメキシコ料理や日本とは全然違うピザやアイスなど初めてのもののばかりで驚きました。例えばアイスはカップに入るだけ詰められてサイズが決まってなく、ピザは一枚がとても大きく分厚かったです。二日目には高校の生徒会を見学させてもらいました。この日はイベントに向けてのミーティングでした。また、別のイベントの事もあったようでイベントの企画などを担当している事が多かったです。

半年間一緒に頑張ってきた仲間、指導してくださった先生方、プログラムのために協力してくださった方々ありがとうございました。おかげさまで、この十日間がとても良い思い出になりました。また良い経験になりました。この経験をいかして外国に関する活動に参加していこうと思いました。そのためにはさらに英語を学んで行きたいです。そして、またアーリントンに行きたいです。

(氏名)鎌田 昂

(学校 学年)長岡第四中学校 2 年

今回の訪問で他国の文化を見て、新しい視点を持つことができるようになったのではないかと考えています。

自分の 1 番印象に残った場所は 1 番最初に訪れた消防署です。自分は最初、消防署長の方となると、きびしくて少し怖かったりするのかなと思っていました。ですが、消防署長の方は実際とてもフレンドリーでやさしく明るい人でした。そのときにアーリントンの人のあたたかさを感じました。ここでアーリントンの人はとてもフレンドリーだということが分かった気がして、この後の学校見学や他の施設への見学を変に気を張らないでいくことができました。それらのような場所でもフレンドリーな方々でした。

ホストファミリーとの生活はとても充実しました。ホストファミリーとは一緒に晩ごはんをつくったり、サイクリングをしたり、ゲームをしたり、買い物をしたりしました。ホストファミリーは自分を家族としてみてくれました。とくにホストブラザーは自分を弟として見てくれました。また、英語での会話はホストファミリーが単純な英語を使うようにしてくれていたのも、単純じゃない英語もありましたが楽しく談話をすることができました。ホストファミリーはとても親切で明るく接してくれたのもとても楽しい充実したホームステイになりました。

フェアウェルパーティーの後には、数人の他の訪問生の友達とその友達のホストファミリーと一緒に野球をしたり、鬼ごっこをしたりしました。友達のホストファミリーもフレンドリーな方々で一緒に遊ぶのはとても楽しかったです。

今回の訪問で全く違う新しい文化を見て知ったのと同時に、日本の文化を知らない人に教えるのはとても楽しいことだなと思いました。けん玉だったり、歌だったり、ダンスだったり、日本語だったりを教えると教えた人たちはとても笑顔をみせてくれて、それはとてもやりがいがありました。自分はアーリントンにまた行きたいという気持ちもありますが、もっといろんな国の文化を見たいです！

(氏名)上田 和歩

(学校 学年)長岡第四中学校 2 年

私はアーリントンに行く前は、とても楽しみでした。でも、飛行機に乗って、もうすぐでアメリカに着くとなった時から不安や心配が大きくなりました。でも、そんな私の不安が吹っ飛びこの 11 日間を楽しめたのは、一緒に行った 15 人のみんなと先生方、アーリントンの人々、そしてなによりホストファミリーのおかげです。

この 11 日間で私が一番印象に残っているのは、ギブス小学校です。ギブス小学校とは、小学 6 年生などの高学年の生徒が通っている学校です。この学校で特に印象に残っていることは、私たちのプレゼンテーションや歌、ロックソーランの発表を小学校の生徒 100 人以上が見てくれていたのですが、すごく盛り上がってくれたところです。他にも、ここの生徒はすごく優しくてとっても話やすかったので、仲良くなりました。

私のホストファミリーは、とても優しい人でした。私が最初緊張していたり、不安な時に「心配しないで落ち着いてね。」と言われました。このおかげで私の不安な気持ちは無くなりました。私は、ホストファミリーの同級生の子と一緒にゲームをしたり、料理を作ったり、映画を見たり、とても楽しい時間を過ごしました。また、ホストファミリーデーでは、マサチューセッツ州のセイラムという場所に連れて行ってもらい、美術館や「ウィッチハウス」という素敵な場所を楽しみました。

私はこの 11 日間で確実に成長しました。それに、英語が好きになりました。それはきっと、この 11 日間が楽しいということだけではなく、どうしたらいいのか分からなくなったり、不安で泣きそうになったことも成長につながっていると思います。これから私はこの経験を活かし、様々なことにチャレンジし、海外の人とたくさん話していきたいです。

(氏名)山脇 翼

(学校 学年)長岡第四中学校 2年

私が今回の交換留学に応募した目的は、実際に現地を訪れることでアメリカを体感し、自分の視野を広げるということでした。私はそれを達成しきることができたと思います。

まず、私の最も印象に残る体験はホストファミリーデーのボストン、チャールズ川でのセーリングです。私のホストファザーがロープを握り、舵を取ってくれました。絶好の晴天で、サングラス越しには遠くまで景色を鮮明に見ることができました。その時に船上から見たボストンの街並みを、私は一生忘れることはないでしょう。私はアメリカに渡る前からインターネット上で何度もその景色を見ていましたが、MIT のグレート・ドームやハーヴァード・ブリッジはもちろん、日の光の眩しさや川の水の音、空の色も、五感で感じる何もかもが、言葉では言い表せない美しさでした。それはまさにアメリカだと感じ、インターネットで見た写真など遥かに上回る特別なものでした。この便利な時代、家でもインターネットがあれば何でも調べられるけれど、やはり実際に行ってみないと感じられないものがあるということを身をもって知りました。

私は日本に帰国してからも、世界は私が思うよりも果てしなく広く、美しく、いつかそのことを自分で確かめてみたい、そう思うようになりました。

何より、日本では決してできない体験をさせてくれたり、心のこもった食事をご馳走してくれたり、英語の単語やスラングを教えてくれたり、たくさんの思い出を作ってくれたホストファミリーのブレット、エイミー、サイモン、また、アーリントンへの留学に関わってくれたすべての方々には感謝しかありません。たった 10 日間でしたが、この経験は私の人生において非常に大きな財産となりました。そしてこれから、今回学んだ文化の違いやコミュニケーションの取り方を生かして自分の世界をさらに広げていきたいと思っています。

(氏名)高橋 宙生

(学校 学年)長岡第4中学校 2年

ぼくが、1番印象に残った場所はレッドソックスの試合観戦をしたフェンウェイ・パーク球場です。理由は、球場の中を見学してガイドの人に色々な歴史などを教えてもらったり、実際に球場のフィールドのほうに入って写真を撮ったりして良い経験ができたからです。これまでは、テレビなどでしか野球は見たことがなかったけど、実際に生で試合観戦をして試合中の臨場感や緊張感、熱気を肌で感じることができました。友達と球場のご飯を食べたり、お土産を買ったりしてとても楽しかったです。あと、レッドソックスファンの人たちと一緒に、学習会で一生懸命練習したスイート・キャロラインという歌を歌ったりして球場全体で全力で応援したことはとても良い思い出になりました。

ホストファミリーとは、2人の兄弟と一緒にゲームをしたり、映画を観たり、バスケットボールをしたりしました。アメリカに行くまでは上手くコミュニケーションが取れるか心配でしたが、ゲームとバスケットボールではとても楽しく、英語でたくさんコミュニケーションをとることができたおかげで、仲を深めることができました。夜ご飯を食べている時には、「今日はどうだった？」と毎日聞いてくれて、1日体験したことを話すことで楽しく会話をしながらご飯を食べることができました。ホストファミリーデーには、ハイキングや海に行ったり、レストランに連れて行ってもらいました。海の眺めはとてもきれいで、ホストファミリーと写真を撮ったり、お菓子を食べたりしました。また、レストランでは卓球をしたり、ミニハンバーガーを食べたりして一緒に過ごすことができて楽しかったです。ホストファミリーの人たちはとてもやさしく接してくれて、ホストファミリーと過ごした10日間は一生の思い出になりました。

ぼくはこの10日間で、学校訪問やホストファミリーと一緒に過ごすなどたくさんの経験を通して自分の英語力やコミュニケーション力を高めることができました。ぼくはこの経験が無駄にせず、これからの生活などで活かしていきたいと思いました。また、もし将来、アメリカに行く機会があれば、この経験を忘れず、英語が喋れてコミュニケーションがしっかりとれるように、これからも英語の勉強をがんばっていきたいです。

(氏名)近藤 千紘
(学校 学年)長岡中学校 3 年

私は今回の訪米で自分自身の価値観など多くのものが変化し、様々な経験に触れることができました。初めてホストファミリーと対面した日自分の実力不足に気付かされました。しかし聞き取ることさえまともにできなかった私にもホストファミリーは何度も繰り返し話しかけてくれたりジェスチャーや言い回しを変えるなどしてコミュニケーションを取ろうとしてくれました。私が何か話そうとした時、あたたかな目で話を理解しようとして下さったその優しさのおかげで自分からより積極的に会話を持ちかけることができました。また、私のホストファミリーはとても人との関わりを大切にする方達でした。私の好物がはちみつと聞き、知り合いに頼んでハニカムでキャンドルを作るなどの提案をしてくださいました。スケジュールの様子などからキャンドル作りなどはできなかったのですが、一緒にピザを作ったり私にポンと何か買い与えるだけではなく自分自身の手で経験させたりお金では手に入らないものの大切さなどを学びました。日本では何をするにもお金を使ったりすることが非常に多くその方が早く楽だと思っていましたが、自分たちの手で何かすることの意義を知ることができました。日中の活動では日本との地理や文化など多くの違いを感じ自分の世界や見解を広げることができました。日本ではなかなか目にすることができなかった自然に溢れた農園、高く広い空、一際大きなハンバーガー、ショッピングモールでは値段もビッグで驚きました。レキシントンでは独立戦争でアメリカ人はどのように戦ったのかなど詳しく知る機会となりました。多くの方々が歓迎してくださり、消防署長さんなど他の日にも会いに来てくださるなどあたたかな対応に心を打たれました。私たちを本当の家族のように接して下さったホストファミリーや訪問時だけでなく時間を割いて私たちに会いに来て下さった方々との出会いは一生忘れられないものとなりました。私も来日されるアーリントン高校の生徒の方達にとって家族の一員と感じられるようになりたいと思います。

(氏名)内山 実彩
(学校 学年)長岡中学校 3 年

私は、今回初めて海外に行き留学というとても貴重で思い出に残る経験をすることができました。実際に現地に行ったことでさまざまなアメリカの文化を感じることができました。アーリントンにいた 10 日間はあっという間でとてもたのしかったです。その中で私が一番印象に残っているのはアーリントンの学校に行ったことです。そこでは現地の学校に通っている生徒の子と一緒に学校の中をまわって同じように授業を受けさせてもらったり学校案内に連れて行ってもらいました。かかわってくれた人全員がとてもやさしくてゆっくり話してくれたり絵に描いて教えてくれたりしました。どの授業に行っても現地の先生が thankyou と言ってくれてうれしい気持ちになりました。実際に自分も授業を受けてみたことで感じた日本の文化や当たり前だと思っていたことの違いなどがたくさんあっておもしろかったです。毎回違うクラスに言って授業を受けたり体育の授業を私服で受けたり日本では給食を全員決まった時間に食べるけどアメリカではカフェテリアで各自で昼食をとっていてちがうところがたくさんあるんだなとあらためて知ることができました。日本で準備してきた長岡京の魅力を伝える発表をや合唱をしたりロックソーランを踊りました。毎回とても盛り上がってくれて楽しかったし発表をしているとき緊張もとれて笑顔ですることができました。アメリカの人はとても盛り上げるのが上手だなとレッドソックスの試合を見に行った時にも思いました。空港についてすぐホストファミリーの子が一人迎えに来てくれていて、メールでのやり取りはしていたけど会って話すのは初めてで緊張しました。アーリントン高校についてホストファミリーみんなで迎えに来てくれてご飯を最初に食べたとき緊張しすぎて味も感じないくらいだったけど最後の日には家族みんなで話しながら一緒にご飯を食べました。ご飯の後お土産を交換し合って日本のお菓子やお箸、扇子など伝統的なものを渡しファミリーからはハーバード大学の帽子や有名なお菓子などたくさんもらいました。家族みんなで習っているダンスのレッスンに 2 回も連れて行ってくれました。日本にいたらする機会もなかったのもとてもいい思い出になりました。ホストファミリーデーにはアメリカにしかないスーパーに連れて行ってもらうたりボストンの街に行って電車に乗ったり水族館に行ってサメやエイを触りました。街の景色が初めて見るものばかりで信号機も違うし車も左ハンドルでたくさんの新しい景色を見ました。最後の日ホストファミリー全員に手紙と 5 円玉を渡しました。ホストマザーがまた会える日を楽しみにしてるねと言ってくれて嬉しかったです。最後に自分なり一生懸命感謝の気持ちを伝えました。夏にホストファミリーの子が家に来てくれるのでその日を楽しみにしています。

このたくさんの経験を通してアメリカの文化や人と関わってもっとたくさんの人とつながりを持てるようになりたいと思ったし、改めて自分ひとりじゃなくて家族やホストファミリー先生や一緒に行った仲間のみんながいたからこそできたことだと思うししっかりと感謝の気持ちを忘れずにこれからも過ごしていきたいと思いました。この10日間をただ楽しかったという思い出で終わるのではなくて今回学んだことや反省点をこれからの生活にいかしていけるようにしていきたいです。

(氏名) 岩田 翔世

(学校 学年) 長岡第四中学校 3 年

私はこのアーリントン長岡京市交換短期留学に参加でき、とてもよかったと思いました。なぜなら、今まで自分が体験したことのない、たくさんの出来事があったからです。例えば、十日間という長期間のホームステイやアメリカの学校での異文化交流などです。

特に、私は小、中、高等学校訪問が記憶に残っています。なぜなら、アメリカの授業を体験したり、いろいろな国の人とコミュニケーションをとることで、自分の知らないことをたくさん知る事ができたからです。例えば、アメリカのお勧めの物や場所、学校での日常生活についてです。また、多くの方々の前で、一生懸命練習した歌やソーラン節などを発表したことも、緊張しましたが、達成感を感じました。

ただ、悲しいことも知りました。例えば、ある女の子は話すのが苦手で、筆談で会話をしていました。しかし、それが理由で、学校の生徒から嫌われていると聞きました。私は、どこの国でもこういうことはあるのだなと思いました。

また、ホームステイに関しては、初め、とても緊張していました。今までに親族の家以外で、人の家に泊まったりしたことがなかったからです。しかし、私の緊張はすぐに解けました。なぜなら、ホストファミリーが気さくに接してくれていたからです。例えば、自分の服を洗濯してくれたり、目的地まで送り迎えなどをしてくれたからです。私は、とても優しく気さくに接してくれているホストファミリーのおかげで、快適にそして楽しく、十日間を過ごすことができました。そして、私はおもてなししてくれるホストファミリーに、少しでも楽しんでもらおうと思い、おにぎりのみそ汁を作りました。ホストファミリーは喜んで食べているようだったので、私はとてもうれしい気持ちになりました。

私は、今回の交換留学で、異文化交流を行う上ではお互いの文化や慣習を尊重し、人の優しさを感じつつ、コミュニケーションをとることが大切だと思いました。また、英語がうまく伝わらないとき、自分なりに工夫をしてしっかり伝えようと努力しました。そこが今回、自分の成長したところだと思いました。そして、長岡京市の他校の生徒や自分の学校の生徒と仲を深めることができたので、よかったと思いました。人とのつながりの大切さを再認識できました。

また、アーリントンで体験したことをいろんな人に伝えていきたいと思いました。